

CIR Insights 18



[東北大学生・教職員のための教育データレポート]

2024年春号 図書館利用データからみる学生の学習行動の変化

コロナ禍の前後で東北大生の学習行動はどう変化したのでしょうか?本号では、本学附属図書館(分館含む)の貸出冊数データを用いて、学生の学習行動の変化を「見える化」してみました。前期の貸出数が10万冊に迫っていた2019年から一転、コロナの直撃を受けた2020年には一気に落ち込みましたが、現在は利用者の属性を問わず2019年の7割程度に戻りつつあります(左図)。同時に、学部生の貸出数を押し上げているのが1年生であることも明らかで、2022年と比べて2023年に倍増し、分野によっては3~5倍増、貸出分野にも広がりがみられます(右図)。こうした変化の要因は何なのか。その一部を右欄で解説しています。

CIRとは?

教育評価分析センターのこと。東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、本学の教育マネジメントを支援する組織です。

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
教育評価分析センター

〒980-8576 仙台市青葉区川内41
Tel: 022-795-4931
Fax: 022-795-4749
E-mail: cir@grp.tohoku.ac.jp
http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp

解説: 学習行動との関連が窺われる全学教育科目

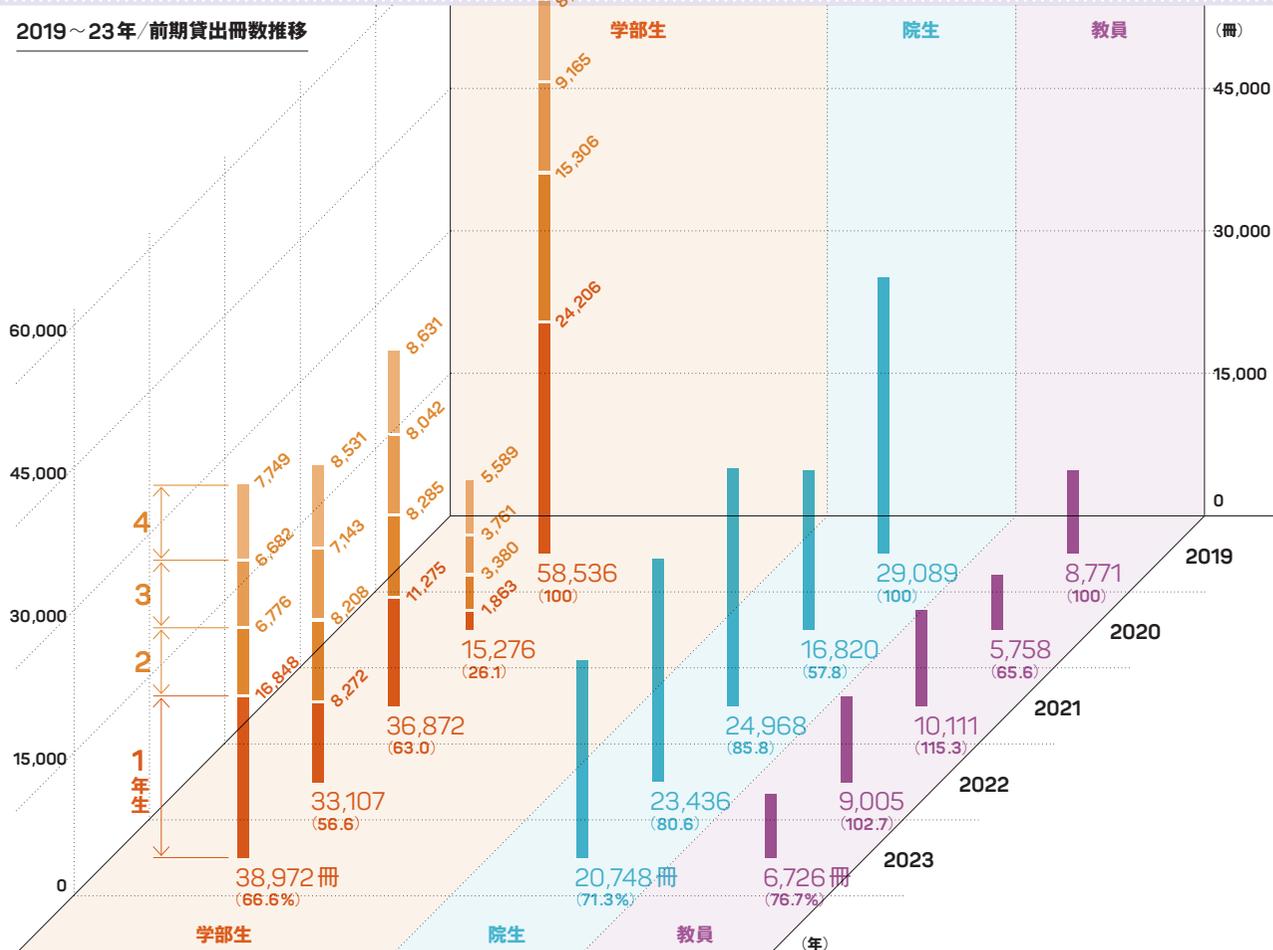
英語: 1年生は全学部4単位必修。2020年度からはAcademic Reading and WritingとAcademic Listening and Speakingの各2単位で、指定教科書を使うなど授業運営において統一性を重視。コロナ禍前は読解科目の一部のクラスで「多読法」を採用していたため、1年生の前期貸出数は2万冊を超えていた。

学問論: 2022年度の全学教育カリキュラム改革に伴い新設。全学部の1年生約2,400名を所属学部が多様な60クラスに分け、講義回と演習回を交互に経験する統一的な授業設計で実施。2023年度は毎週の課題で文献探索と引用を促したため、多くの1年生が図書館に足を運び、全分野で貸出数が前年度を上回った。

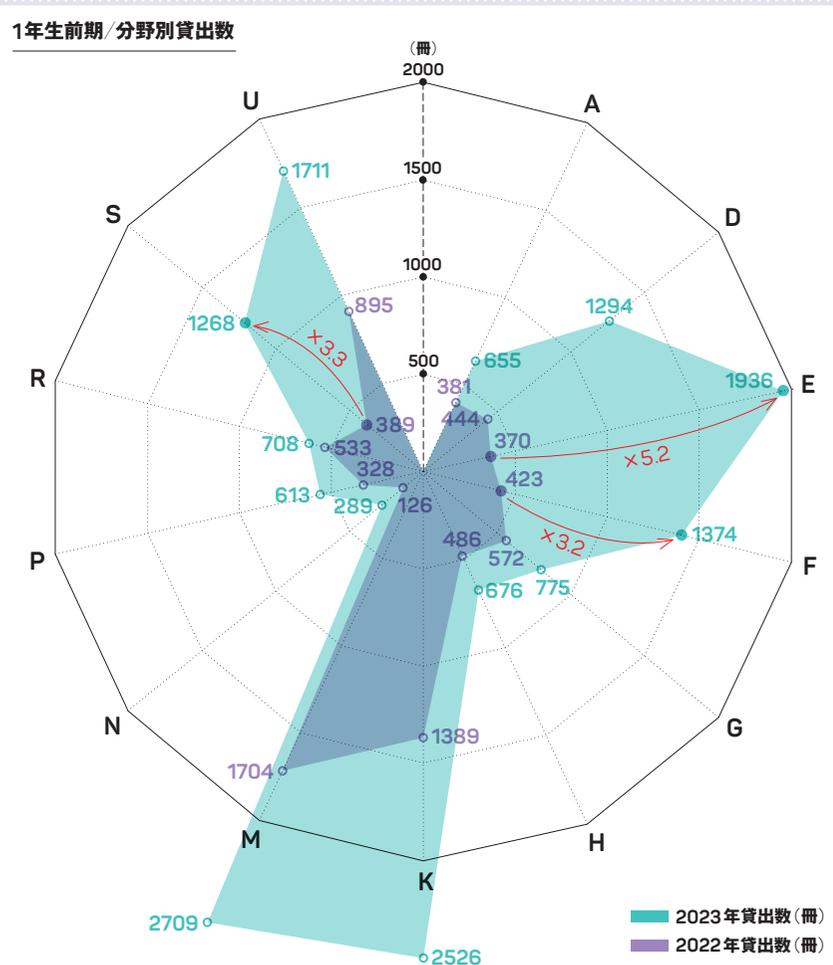
凡例: 貸出分野ラベル(国立国会図書館分類表準拠)

- A 政治・法律・行政
- B 経済・産業
- C 社会・労働
- D 教育
- E 歴史・地理
- F 哲学・宗教
- G 芸術・言語・文学
- H 科学技術(科学技術一般、数学、宇宙科学、物理学、地球科学)
- I 科学技術(建設工学、機械工学、運輸工学、電気工学、原子力工学)
- J 科学技術(化学・化学工業、繊維工学、食品工学、金属工学・鉱山工学、印写工学、その他の工学)
- K 科学技術(生物学、農林水産学)
- L 科学技術(人類学、心理学、医学、薬学)
- M 学術一般・ジャーナリズム・図書館・書誌

2019~23年/前期貸出冊数推移



1年生前期/分野別貸出数





CIRと コラボレーション しませんか？

CIRでは全学的な教育に関する調査分析の他に
学内各所の委員会や部局との連携・協力による改善
支援を行っています。

これまでCIRが蓄積してきた様々な教育関連データ
を用い、教育改善に向けた課題抽出、解決のための情
報分析をお手伝いします。

ご興味をお持ちの部局、解決したい課題をお持ちの
方がおられればお気軽にお問い合わせください。

例えば、こんなことができます【これまでの実績】

➔ 東北大学学務審議会 / 教育情報・評価改善委員会

CIRは、東北大学学務審議会の下に設置されている教育情報・
評価改善委員会からの依頼に基づき、「授業アンケート結果概
要」および「成績評価結果概要」をそれぞれ年2回作成してい
ます。それらの報告書は全学教育の科目委員会と共有されるこ
とで、教育活動の振り返りと改善に役立てられています。

➔ 国際学位プログラム (FGL) の学修成果検証

英語で学位取得可能な国際学位プログラム (Future Global
Leadership: FGL) の卒業生・修了生の学修成果を検証するため、
グローバルラーニングセンターと協力し、「第6回 東北大学にお
ける教育と学修成果に関する調査」(2022年度に実施)と同様の質
問項目を用いた調査を2023年秋に実施。留学生のニーズや成
果の把握に努めています。

CIRが実施する調査のご紹介

CIRでは、過去に実施した調査報告書を配付しております。

入手をご希望の方は下記のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

【お問い合わせ】教育評価分析センター →→→ cir@grp.tohoku.ac.jp



2023年
3月
実施

東北大学の教育と 学修成果に関する調査報告書

2012年度から2年に1度実施されている「東北大学の
教育と学修成果に関する調査」の第6回報告書が発刊
されました。

本報告書では、2022年度に本学を卒業・修了した学生
たちが東北大学での経験を振り返った結果をまとめて
います。これまでの調査結果との経年比較も参考にし
つつ、東北大学生の学修成果の現状を正確に把握し、
将来を展望するための一素材としてご活用いただける
内容となっています。

【目次】

第1部 調査の概要

第2部 各部局の結果に対する所見

第3部 資料(基礎集計表・自由記述・調査票)

- 【既刊】
- 第1回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2013年3月実施)
 - 第2回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2015年3月実施)
 - 第3回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2017年3月実施)
 - 第4回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2019年3月実施)
 - 第5回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2021年3月実施)



2022年
1月
実施

東北大学の教育に関する卒業・修了者調査報告書

第4回の「卒業・修了者調査」は、本学の学部・大学院を
2012年度、2016年度、2020年度に卒業・修了した方
を対象に実施しました。これらの年度の卒業・修了生に
は、「東北大学の教育と学修成果に関する調査」の回
答も依頼しており、両調査に協力してくれた方々につ
いては、主要項目における回答の変化が確認できる調査
設計となっています。

本報告書の第1部では調査全体から得られた結果を概
観・分析しています。続く第2部では、卒業・修了生の回
答や意見を通して、各学部・研究科に自らの教育研究を
振り返ってもらった結果を「所見」として掲載しました。
さらに第3部には、卒業・修了生の皆様から寄せられた
「自由記述」を含む各種資料を掲載しています。

【目次】

第1部 調査の概要と知見

1. 調査結果の概要
2. 学修成果認識と大学教育の貢献

第2部 各部局の結果に対する所見

第3部 資料(基礎(クロス)集計表・自由記述・調査票・ 参考資料)

- 【既刊】
- 卒後10年の経験から見た東北大学の教育：東北大学の教育に関する卒業・修了者調査報告書(2007年1~2月実施/キャリア支援センター編)
 - 「東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」結果の概要(2014年2~3月実施/キャリア支援センター編)
 - 2017年度 東北大学の教育に関する卒業・修了者/雇用者調査報告書(2018年1~2月実施/教育評価分析センター・キャリア支援センター編)